放射線管理手帳　運用要領・記入要領（事業者用）第12版　正誤表

ページ数	誤	正
P34 下から12行目	次により手帳の合併申請を行う。	次により手帳の統合を行う。
P34 下から10行目	事業者は、手帳を合併する場合には、手帳合併申請書を作成し、本人から同意の確認後、新旧手帳を添えて手帳発効機関に申請する。	事業者は、同一人に対して重複中央登録番号が付番されている事が判明した場合には、本人に経緯を確認し新旧手帳を持参し手帳発効機関に申し出る。
P34 下から8行目	②　手帳の管理等	②　手帳の統合後の管理
P34 下から7行目	合併処理	統合処理
P34 下から6行目	個人管理台帳に合併した旨記入し、本人に再度損傷または紛失しないよう指導するとともに、	個人管理台帳に統合した旨記入し、本人に説明・指導するとともに、
P56 下から12行目	ＣＨＡＮ　ＭＥＩＦＡＮ	ＣＨＡＮ．Ｍ
P85 G欄記入例 施設名の列	除染特別区域	除染特別地域
P90 下から9行目	X+X+X→「0（3X）ミリシーベルト」とする。	X+X+X→「0.0（3X）ミリシーベルトまたは0（3X）」とする。
P109		別紙参照
P130 5行目	以下の事象が発生した場合に、閉鎖処理を行う。	以下の事象が発生した場合は（1）～（3）については手帳発効機関で閉鎖処理を行う。（4）については事業者が閉鎖処理を行う。
P143 「施設名」の行 右の欄1行目	「除染特別区域」、	「除染特別地域」、
P144 ①施設名 右の欄3行目	「除染特別区域」、	「除染特別地域」、
P145 ⑦施設名 右の欄3行目	「除染特別区域」、	「除染特別地域」、
P147 ①教育内容（対象施設等） 右の欄2行目	「除染特別区域」、	「除染特別地域」、
P149 G欄記入例 施設名の列 （4か所）	除染特別区域	除染特別地域
P149 G欄記入例 ふきだし中	「除染特別区域」、	「除染特別地域」、
P150 H欄記入例 対象施設等の列 （3か所）	除染特別区域	除染特別地域
P150 H欄記入例 ふきだし中	「除染特別区域」、	「除染特別地域」、

旧手帳（既発行手帳）

E. 被 ば く 前 歴

a. 本手帳発行前年度までの個人線量の記録

（昭和63年度以前）　単位：ミリレム

17	昭和・平成　年　月　日～昭和63年度末	
18	前歴なし	（　X）

（平成元年度以降）　単位：ミリシーベルト

20	平成　年　月　日 ～平成 23 年度末	
21	前歴なし	（　X）
22	年度	（　X）
23	年度	（　X）
24	年度	（　X）
25	年度	（　X）

上記線量の内緊急作業線量	24 年度	18.2 （ 0 X）
	25 年度	20.0 （ 1 X）
	年度	（　X）

b. 本手帳発行後の年度別実効線量

単位：ミリシーベルト

年　度	実 効 線 量
24 年度	18.2 （ 4 X）
25 年度	20.0 （ 4 X）
26 年度	0.46 （ 0 X）
27 年度	0.51 （ 0 X）
28 年度	0.20 （ 0 X）
29 年度	0.30 （ 0 X）

新手帳（継続発行手帳）

旧手帳の記入内容を転記する。

E. 被 ば く 前 歴

a. 本手帳発行前年度までの個人線量の記録

（昭和63年度以前）　単位：ミリレム

17	昭和・平成　年　月　日～昭和63年度末	
18	前歴なし	（　X）

（平成元年度以降）　単位：ミリシーベルト

20	平成 24 年 4 月 1 日 ～平成 29 年度末	
21	39.67	（ 8 X）
22	26 年度	0.46 （ 0 X）
23	27 年度	0.51 （ 0 X）
24	28 年度	0.20 （ 0 X）
25	29 年度	0.30 （ 0 X）

上記線量の内緊急作業線量	24 年度	18.2 （ 0 X）
	25 年度	20.0 （ 1 X）
	年度	（　X）

b. 本手帳発行後の年度別実効線量

単位：ミリシーベルト

年　度	実 効 線 量
年度	（　X）
年度	（　X）
年度	（　X）
年度	（　X）
年度	（　X）
年度	（　X）

・上段に旧手帳のG欄から放射線業務の開始年月日「24. 4. 1」、右側に継続発行前年度の年「29」を記入する。
・下段については、29 年度末までの実効線量「39. 67（8×）」を記載する。

過去 4 年間の単年度の実効線量（含 × 回数）を旧手帳から転記する。

「本手帳発行前年度までの個人線量の記録」欄の下の余白部に、緊急作業線量記入枠をスタンプ等で追加

緊急作業の従事歴がある者は直近 4 年間からはずれた場合でも必ず記入する。